故中橋彌光先生を追悼する

前京都社会事業財団西陣病院病院長・京都府病院協会副会長・医学博士・中橋彌光先生は，2020 年 4 月 29 日に逝去されました．享年 91 歳でした．中橋先生は，京都の透析療法の先駆者として広く知られています．

私事になりますが，私は東北大学医学部を 1960 年に卒業し，翌 1961 年に母校の泌尿器科学教室へ入局しました．その後間もなく，当時の現職の宮城県知事が急性腎不全に陥り，導入されたばかりのコルフ型タンク式の透析装置を稼働することになりました．20 人以上いた教室員は全員駆り出され，新人の私に回ってきたのは 1 時間ごとに採血した試料を研究室へ運ぶ役目でした．当時はもちろん検査会社などはなく，電解質も尿素窒素も研究室にある自前の装置で何時間もかけて教室員が計測するのです．その努力も空しく，知事は十数日後に亡くなってしまわれましたが，血液透析とはなんと大変な作業かと，身をもって知らされた経験でした．

今回，この追悼文を書くために届けていただいた『京都における腎不全医療の黎明期』（京都透析医会編，2018 年）に目を通して，ここ京都の地でも，同じ頃，同じような苦労が繰り返されていたことを知りました．それによりますと，京都府立医大での血液透析は，1963 年に昇汞中毒による女性の急性腎不全患者（この例がそうかどうかは知らないが，あの頃は手指消毒用手洗水に溶かすための昇汞錠を飲んで自殺を図る看護師さんの症例を時々経験した.）を救命したのが嚆矢だそうで，当時，全国的に見ても大変貴重な成功例だったと思われます．京都大学には 1964 年に透析装置が導入されたそうです．

一般病院での透析は，京都第一赤十字病院が 1969 年に組織的に開始したのが最初で，その後右京病院（1970 年）と西陣病院（1972 年）が第一日赤の後援のもとに参入しました．西陣病院は 1934 年に設立された，元々は福祉事業的色彩を持つ病院でしたが，1969 年から 24 年間病院長を勤められた中橋先生のご努力で拡張に拡張を重ね，現在では京都市北部の中核病院として広く認知されているのは，ご存知のとおりです．

中橋先生は，前述のように時代に先駆けて病院内に血液透析センターの設立を構想され，現在この病院は 130 床を超える透析専用施設を擁しています．また 1981 年の京都透析医会の設立に当たっては，中橋先生はその中心人物として活躍され，第 1 回研究会は西陣病院で開催されました．1990 年には腎不全対策推進功労により厚生大臣表彰を受けられ，また 1991 年には救急医療功労により京都府知事からも表彰されておられます．

このように中橋先生は，時代の先端をいく指導的立場にありながら，そのご意見は常に中庸で，私にとっては頼り甲斐のある優しい先輩でした．

心からご冥福をお祈りいたします．合掌

（渡辺記念長命研究所長，京都府立医科大学・明治国際医療大学名誉教授　渡辺　泱）

【略歴】

中橋　彌光（なかはし　ひさみつ）
昭和 4 年 7 月 5 日生

昭和 27 年 4 月
京都府立医科大学入学
昭和 31 年 3 月
京都府立医科大学卒業
昭和 32 年 3 月
京都府立医科大学大学院入学
昭和 37 年 3 月
京都府立医科大学大学院卒業
昭和 44 年 12 月
西陣病院着任（病院長）
平成 4 年 5 月
西陣病院退職（病院長）

昭和 62 年-平成 5 年
日本透析医会理事
平成 5 年-令和 2 年
日本透析医会顧問